

五感で森を学ぶ森林環境教育(LEAF)のプログラムを体験!

木や植物観察



見る・聞く・嗅ぐ・触る...五感を駆使して森を体験。植物当てゲームや枝拾い競争で盛り上がりました

間伐体験



手のこで木を切り倒す間伐は大迫力! 適度に木を開いて樹間に光を入れることで、森を育てるのです

コースター作り



伐採した木を輪切りにしてコースターや鍋敷きを製作。苦労の末にオリジナル作品が完成した喜びは格別!

高性能林業機械の見学



ハーベスタで伐採した木をチップパーで粉砕。チップ状になった木はボードや燃料(ペレット)に使われます

植樹体験



トドマツの苗木を1本ずつ植えました。すくすく育ちますように



都会育ちの子どもたちが森の自然を心底楽しんでくれてうれしく思いました。LEAFのプログラムを通して森を生態学的・科学的に理解し、経済や文化、風土の面も含めた存在意義をバランスよく評価し、自分の生活に役立ててほしいと思います。

LEAF(北欧森林環境教育)公認インストラクター
NPO法人ねおす 理事 宮本 英樹



森のフィールドツアー

環境保全に配慮した林業を行っている山林。
三井物産の森「似湾山林」
むかわ町と厚真町にまたがる広大な山林で、面積約4700ヘクタールのほぼ全域が水源かん養保安林に指定されています。社有林の中でも最も林業が活発であり、動植物も多数生息する「林業と環境保全の両立」を表している森です。



9月1日(土)、三井物産(株)が保有する似湾山林(勇払郡)で「森のフィールドツアー」が開催されました。道内の小学4~6年生の子どもたちと保護者19組38名が、AIR-G/アナウンサー・千葉ひろみさんと共にツアーに参加。世界14カ国にネットワークを広げる北欧発の森林環境教育(LEAF)に基づくプログラムと、手のこで行う間伐を体験しました。



記念の柱を立ててみんなで記念撮影。いろいろな体験をし、さまざまなことを学んだ森の中に、子ども達の笑顔が広がります

森でどんな出会いが待っているのかな?

三井物産(株)では全国74カ所、約4万4000ヘクタールの社有林を保有しており、環境保全に配慮した林業に取り組んでいます。今回の教室は同社が保有する似湾山林。バスの中で三井物産・斎藤江美さんから森に関するお話を聞き、AIR-G/アナウンサー・千葉ひろみさんの楽しいトークで盛り上がった後は、プログラムを企画したNPO法人「ねおす」の宮本英樹さんによるクイズです。「森にあるもの」「木から生まれる身の回りのもの」を一人ずつ挙げていくうちに、私たちの暮らしが木と深く結びついていることを実感。さあ、これから始まる森の旅は、子どもたちに何を教えてくれるのでしょうか。

遊んで学んで、間伐作業で大歓声!

現地で迎えてくれた三井物産フォレスト(株)のスタッフと共に4チームに分かれて、いざ出発。植物の観察をしながら森の奥へ進み、その途中で袋の中に入った植物を探し当てたり、各チームで拾った枝をつなげて長さを競うゲームを楽しみながら、子どもたちの目がキラキラしてきました。昼食の後は、いよいよ間伐作業に挑戦。森に植えた木が成長し、森の中が密集すると太陽光が届かなくなり、全ての木の成長が遅れます。そこで、曲ったり枯れている木を間伐して元気な木の成長を促します。健全な森は光合成によってCO2を吸収したり、土壌にしっかりと根が根が土砂災害を防ぐなど、私たちの暮らしにとって大切な存在。だから適度な間伐が不可欠な

のです。手のこで木を切るのは地道で大変な作業ですが、子どもたちは汗をかきつつ作業に没頭。やがてメリメリと音を立ててドスンと木が倒れると歓声が上がりました。間伐した木は輪切りにしてコースターや鍋敷きを製作。林業機械のハーベスタやチップパーも見学して、間伐された木がさまざまな形で私たちの暮らしに役立っていることを実感しました。

大切にしたい、森と人間のいい関係。

プログラムの締めくくりは植樹体験。地面に穴を掘り、トドマツの苗木を1本ずつ植えていきます。隣のブロックには、昨年のプログラムで植えた苗木がすくすく。子どもたちがおじいさん・おばあさんになるころ、似湾山林はますます豊かな森になっていることでしょう。間伐と植樹のサイクルの中で森を大切に育てることが、私たちの暮らしや地球環境を支えているということも学んだ1日となりました。その思い出は、子どもたちの心にとろりと根を下ろしたに違いありません。

トドマツは成長するまで50年もの歳月が必要です。



北海道全域に生育するトドマツは、実は松ではなくモミの木の仲間。バルブやチップの原料のほか建材にも使われています。トドマツの年齢は枝葉を見れば一目瞭然。段階的に広がっている枝葉の一段が樹齢1年にあたります。見上げるような立派なトドマツに成長するまでには約50年。若木はエゾシカに食べられてしまうこともあるので、人間の手で大切に守り育てることが必要なのです。

森は人の手で手入れされることで豊かに広がっていきます。

手入れされていない荒れた森

- 木が密集して大きく成長できない。
- 太陽の光が木の下に届かない。
- 下草が育たず、生物の生育の場が少ない。



間伐・植林によって手入れされた森

- 木が大きくなり、しっかりとした根を張ることで、土砂災害を防ぐ。
- 間伐をすることで、土砂災害を防ぐ。
- 生物の生育・生育の場を増やし、生態系を維持。



森への愛は世代を超える。“木づかい”する暮らし、大切ですね。



千葉 ひろみ(AIR-G/アナウンサー)
AIR-G FM北海道「Action」(金曜、7:30~12:55)、「にっこり」(日曜、8:30~9:00)などでパーソナリティーを務める。

とても充実した1日でした。外遊びが減ったといわれる現代っ子も森に入るとみんな自然児。クワガタやカエルを捕まったり、木や植物に触って匂いを嗅いだり、私たちが子どものころと同じでした。森を愛する気持ちは世代を超えるのかも知れませんね。似湾山林は

原生林のたまたまを壊しながらきちんと手入れがされていて、大切に育てられているのだと感じました。参加者の中から「木を思い有効に使う“木づかい”を大切にしたい」という感想がありました。森を愛する気持ちは世代を超えたいと思います。

参加者の感想

【子どもたち】

- 初めての間伐体験が楽しかった。いろいろなことを森で楽しんだ。
- 機械を使って間伐した木を粉々にするということを初めて知った。
- カエルもトンボもカゲも見られた。木をいっぱい切れたのが一番よかった。

【保護者の方】

- 森は自然にできるのではなく、世話を手を加えてこそ価値ある森になることが分かり、勉強になった。
- 木にお世話になっている生活。私達の手で森を守っていかねければと思った。

▶ 詳細はホームページへ <http://eco.hokkaido-np.co.jp> 北海道エコ・アクション 検索 企画制作/北海道新聞社広告局

社有林

しゃゅうりん

企業が所有・管理する森のこと。三井物産はもう100年以上にわたって、広大な森を守り続けています。現在では全国に70カ所以上、約44,000ヘクタールもあります。でも総合会社として森を? それは、地球環境を守るためであり、森が持つ社会的な価値を活かすためです。森は、多くの生命を支え、育む、エコロジーの宝庫。その大切な機能を、あなたはいくつご存じでしょうか?

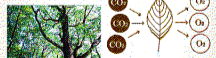


根室 岬ノ木山



全国70カ所以上に広がる三井物産の森

温暖化防止に貢献します
三井物産の森は、地球温暖化の主な原因といわれている二酸化炭素を年間約16万トン吸収・固定するといわれています。



地球の浄水器です

森の土はスポンジのように雨水を蓄えて、洪水や濁水を防ぎます。そして雨水をゆっくりとろ過して水をきれいしてくれます。



災害を防ぐ大黒柱です

山崩れなどの災害を防ぐのも森の大切な仕事。地中で深く広がった根は、土や岩をしっかりとつかえこみ、崩壊を防いでくれます。



エコロジーの学校です

植林や林業体験、森林機能学習講座、自然観察プログラム、三井物産の森は、環境教育や地域活性化にも役立っています。



動物たちのわが家です

さまざまな植物はもちろん、天然記念物や絶滅のおそれのある動物も、三井物産の森で数多く確認されています。



三井物産の森

くわしくは 三井物産の森 検索

